

の回復に向けた対策についても、各般の情勢を見極めた上で実施するなど、状況の変化に即応しつつ、町民皆さまの安心な暮らしと雇用・経済を守り抜くために必要な対策を躊躇なく速やかに講じます。

## 本年度推進施策の 大要について

### 1 機能的で魅力ある 基盤づくり

町民の安全・安心と快適な生活を守り、住環境などの利便性を確保するためには、計画的な生活基盤の整備と施策の推進が必要です。道路整備は、国道274号標茶・上茶路間のうち、釧路市阿寒町布伏内から本町二股までの17・7kmは、全国の国道でも数少ない未開通区間となっており、早期の整備促進に向けて、関係機関に対する要請活動に努めます。また、地域住民の利便性の向上と物流の効率化を図るため、国道38号を補完する町道振内線は、本年度中の事業完了に向けて整備を進めます。

町営バスターミナルの改築に向けては、白糠駅舎との合築による交通アクセスの利便性確保や駅前を中心とした賑わい創出を図る観点から、まちの新たな拠点となる複合施設として整備する考え方を基本とし、官民連携による効果的・効率的な事業手法などを検討するとともに、継続してJR北海道など関係機関との協議を進めます。消防体制の整備は、第2・第3分団詰所が改築時期を迎えていることから施設整備の方向性について検討を進めます。

防災体制の整備は、河川の増水や大雨による浸水被害を未然防止する災害用排水ポンプ9基について、適切な維持管理に努めるとともに、設置からの経過年数などを考慮し、本年度からの年次計画をもって順次更新を実施します。

また、戸別受信機で、災害時に正確な情報を伝達し、速やかな避難行動に繋がるよう努めます。政府が日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデルを公表したことを受け、北海道が津波浸水想定図を策定する方針を示していることから、公表後、速やかに津波災害の啓発などの対応を図ります。

防災基盤の整備は、自然災害に対する町民の安全・安心を確保するため、海岸保全や河川整備などの事業推進に向け、関係機関に対する要請活動に努めます。

また、国道38号恋問館付近から町道釧路空港短絡線に連結する避難路について、大津波発生時に恋問館の利用者や国道の通行者が一刻も早く高台に避難することができよう、早期の整備実現に向けて関係機関との協議を継続します。行政のデジタル化は、住民サービスの向上を実現することに加え、国・地方全体としての行政の



第2分団詰所は、築44年が経過しており老朽化しています。

- 効率化を図ることが重要なことから、地方自治体における基幹系情報システムの統一・標準化などに向けた国の動向を注視し、積極的な情報の収集・提供に努めます。
- ICTインフラの整備は、超高速ブロードバンド環境がこれからの産業や生活の基盤をなすものであり、新型コロナウイルス感染症対策においてもその必要性が明確になったことから、全ての未整備地域を対象に、民設民営方式で光ファイバ網の整備を進めます。
- ① 国道・道道の整備促進要請
  - ② 町道の整備促進
  - ③ 橋梁長寿命化修繕計画の推進
  - ④ 農道・林道の整備
  - ⑤ 海岸保全・河川の整備促進要請
  - ⑥ 地域公共交通ネットワークの確保・維持
  - ⑦ 町営バスターミナル・駅前広場の整備に向けた取組の推進
  - ⑧ 公営住宅等長寿命化計画の推進
  - ⑨ 交通安全思想の普及啓発
  - ⑩ 消防・防災体制の充実強化の推進
  - ⑪ 行政のデジタル化に向けた取組の推進
  - ⑫ ICTインフラの整備促進